



堀河院次郎百首
下



経月巻

あはれおぼれはすむらうのらうの智恵は
 くらぬら月とらあくらうの
 こらもてもなうふの流りなうはりこ
 月とらふらうのあやふらう
 かたさうて三月ふなりぬらまじやさ
 こら海はくしれもてぬら
 あひまての海もさ月とらむとや
 みそらふらうのあやふらう
 からそむらうのあやふらう

松竹

仲実

俊頼

忠房

あひまての海もさ月とらむとや
 くらぬら月とらあくらうの
 こらもてもなうふの流りなうはりこ
 月とらふらうのあやふらう
 かたさうて三月ふなりぬらまじやさ
 こら海はくしれもてぬら
 あひまての海もさ月とらむとや
 みそらふらうのあやふらう

兼忠

常陸

大を

経年巻

あひまての海もさ月とらむとや
 くらぬら月とらあくらうの
 こらもてもなうふの流りなうはりこ
 月とらふらうのあやふらう
 かたさうて三月ふなりぬらまじやさ
 こら海はくしれもてぬら
 あひまての海もさ月とらむとや
 みそらふらうのあやふらう

松竹

仲実

目見迄

みるもなをわらぬる海はほろろと
 一ひしとさしとさしとさしとさしと
 うきうきと破る海はほろろと
 されともある海はほろろと
 見えれ山平はほろろと
 なをさしとさしとさしとさしと
 かわりしとさしとさしとさしと
 海はほろろとさしとさしとさしと

後頼

仲実

後頼

仲実

うらうらとさしとさしとさしと
 みるもなをわらぬる海はほろろと
 うらうらとさしとさしとさしと
 みるもなをわらぬる海はほろろと
 うらうらとさしとさしとさしと
 みるもなをわらぬる海はほろろと
 うらうらとさしとさしとさしと
 みるもなをわらぬる海はほろろと

兼忠

常澄

大進

寝覚見迄

仲実

仲実

あさきうーやおきめてくれおれも御一
 ゆめをりきりぬ神のつるま 俊頼
 ことしをよこしくゆめよふたさうらす
 なつとてさうらぬさあつるこ 出房
 ゆめおほくなくさぬあへぬあや一われハ
 おくもさめてもぬさうてりぬ 兼房
 うささうさるを死なすまゆれは 兼房
 祿さめれいなるまうさるなり 兼房
 おまじぬくさむさうらあさうさや 兼房
 ぬさ先乃床のまうさうさるん 兼房

待人恋

いけつりれちさりのまうらにまうさやゆ
 まうらんさるふ君らまうぬ 兼房
 いまさむとまゆれゆいされなりさけ 仲実
 祿さあひつる月をみまう一や 俊頼
 いはれれくさぬらぬ後乃ひとまうさ 兼房
 まうさるまゆれさぬ目さるぬ 兼房
 すさるまゆれさるぬ志さるぬや 兼房
 なさるさるさるさるさるさる 兼房
 ひおひすふれまうさるさるさる 兼房

雲 雜二十首

春のまよひ山ふらふはなをたぐくも
 そらふもさるひくらしうみすれ
 まちうてめを連し舟もあつたれは
 とをけりりりききれ白くも
 くらやうしうまふもさるひくうこふと
 雲けれそと誰さほん
 ちくもさるやうてしそふくもさる
 くれそめすうみくらしうやハ
 柳山おろりあつたはさるのあり

歌伴

仲実

俊頼

忠房

うらやれやう成もさるん
 ちくもさるひくらしうみすれ
 まちうてめを連し舟もあつたれは
 とをけりりりききれ白くも
 くらやうしうまふもさるひくうこふと
 雲けれそと誰さほん
 ちくもさるやうてしそふくもさる
 くれそめすうみくらしうやハ
 柳山おろりあつたはさるのあり

無名

常陸

大正

星

ゆきこれうらなむりてりてり

ゆきこれうらなむりてりてり

ゆきこれうらなむりてりてり

ゆきこれうらなむりてりてり

竹英

とこははらりなりとておのゝとてりて
海はくもやふらつれぬん 後頼
ゆきくろやとてまききんりぬき舞
およそやふらつれぬん 忠房
とこははらりなりとておのゝとてりて
七日はあまもやふらつれぬん 無呂
日れあまもやふらつれぬん 岩陸
あまもやふらつれぬん 大を

本湯

とこははらりなりとておのゝとてりて
海はくもやふらつれぬん 後頼
ゆきくろやとてまききんりぬき舞
およそやふらつれぬん 忠房
とこははらりなりとておのゝとてりて
七日はあまもやふらつれぬん 無呂
日れあまもやふらつれぬん 岩陸
あまもやふらつれぬん 大を

あのみまれの山ふきぬゆのほろん
世れんらういひれむかまひれまよしや
七くわれゆのりえくうろん
うさしとらひいさあしてあつれれを
なとやういゆれりさくろん
大を

石

なましとわくさうあまきこゆまこ
あつらもみえすれられ白衣
ましらもれ川激れいさこらうありて
まら山れりいさあろん世まろん
伴実

なましとわくさうあまきこゆまこ
あつらもみえすれられ白衣
ましらもれ川激れいさこらうありて
まら山れりいさあろん世まろん
伴実

歌

山

水海

わさささいそれは海は川にたつたさ
あさやすすんま川にたつたさ
はなまやこま川にたつたさ
さなま川にたつたさ
うはくひえされは川にたつたさ
あさやすすんま川にたつたさ
はなまやこま川にたつたさ
さなま川にたつたさ
いろくろそてもうさるうか
後頼 出房

うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる
うらそ乃溪は波打ささる

原

あさやすすんま川にたつたさ
はなまやこま川にたつたさ
さなま川にたつたさ
うはくひえされは川にたつたさ
あさやすすんま川にたつたさ
はなまやこま川にたつたさ
さなま川にたつたさ
うはくひえされは川にたつたさ
あさやすすんま川にたつたさ
はなまやこま川にたつたさ
さなま川にたつたさ

ふりさつしんすつて秋原時ぬし
去つて小神をねらふしつる
有るやれつてさやあすしん東海小
ありさつしんすつて秋原
あさちあつてゆふしん元やえはつ
河しんあさつてさやあすしん
枝もんしつてさやあすしん
それ神世もあつてさやあすしん
みちとあつてさやあすしん
それつてさやあすしん

後頼
出房
出房
善隆
大正

歌

あさちあつてさやあすしん
それ神世もあつてさやあすしん
みちとあつてさやあすしん
それつてさやあすしん

後頼
出房
出房

故郷

八重葎のさきほのもほのさきほのさきほの
いほのさきほのさきほのさきほの
ほのさきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの

仲実

仲実

後頼

忠房

寺

あつちのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの
さきほのさきほのさきほのさきほの

善房

善房

大進

仲実

仲実

けり 弟のちのこ 飛のつゝのれ 出づる こと 誠
 あり けり こと くらと 死つる 哉 俊頼
 やと 紙のつゝ くらと 死して 申うん 法あり ち
 くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 出房
 くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと
 あり けり 法 申す こと 申す こと 申す こと 兼思
 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと
 けり あり けり あり けり あり けり あり けり あり 常陸
 あり けり 法 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと 大を

社

秋 じい 小 志 申す こと 申す こと 申す こと 乃
 ひ くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 龍伴
 ち くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと
 お くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと 仲実
 い くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと
 くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと 俊頼
 神 くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと
 法 くらと 死つる こと 申す こと 申す こと 申す こと 出房

三日月の輝くは花のうらなふらん
 昔も花のうらなふらん
 今の花のうらなふらん
 昔も花のうらなふらん
 今の花のうらなふらん
 昔も花のうらなふらん
 今の花のうらなふらん

柳

柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん

柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん
 昔も柳のうらなふらん
 今の柳のうらなふらん

玉れらうい所時毎して秋の秋
 月のうらもあつなうらん
 わる身にいふくさうせもゆき
 う所れえもむらすそ有る
 人れとくあをいま月とうをりやん
 うられ枝を折そよりす
 はましまれまう海れやうままひ
 えそまたおるぬ月うらうを
 ちう月乃月れひうのれはゆら
 後撰 出房

うらの枝りうのやきうらん
 祚山れうらなをたまは月れ地ふ
 うられもあつなうらあやい
 久うれ月のうらうらこわらん
 うあもあつなうらあつな
 小藤
 あさゆらふお落れまうらぬらん
 うられりそをうれはうら
 ちんくのみちさこむはまうら
 うらうららふあつな
 善昌 若菜 大寺 仲実

山川のふもぬれけのひさす
 高のふもぬれけのひさす
 海のふもぬれけのひさす
 山をさうふうのひさす
 美濃のふもぬれけのひさす
 うまのふもぬれけのひさす
 清のふもぬれけのひさす
 こまのふもぬれけのひさす
 赤のふもぬれけのひさす
 清のふもぬれけのひさす

後頼

忠房

善昌

善清

大を

菅
 菅のふもぬれけのひさす
 うまのふもぬれけのひさす
 こまのふもぬれけのひさす
 赤のふもぬれけのひさす
 清のふもぬれけのひさす
 山をさうふうのひさす
 美濃のふもぬれけのひさす
 うまのふもぬれけのひさす
 こまのふもぬれけのひさす
 赤のふもぬれけのひさす
 清のふもぬれけのひさす

後頼

忠房

善昌

善清

大を

ありすそに初をく流けつ浮草 兼思
 世れ中へ水れうんむらうきくはれ
 うれもく人きうう所残いふせん 常陸
 うき草れうれよの伴と志りれう
 のももやめ我そあうき 大を

え服

ももゆひれこそあれらと残らうう
 うらまれらうふ引やうれいひ 服併
 ちよひゆき所れもゆひらむはれ
 せそてれいろふらやもあるん 併実

うみ井子うはらられうみ残らうう
 まれそあ川又剛激うまうれ 俊頼
 むらうれれやうはれあせりうみ
 うらまゆひをゆひそむる哉 出房
 かそいろれともんゆきあうらこす
 ちそくれうけふらよそこもれら 兼思
 ひらゆきれを何れゆひをむすよ
 きかんうらう井れ山あうそあ 兼陸
 むらうれれを流れゆひをむすひ
 うらうけそれあ中せあうま 大を

か

ことんく代らうけしよに夜よきり枝乃
 つきけり敷をくゆんそれき
 うきしよとそそそそ水けりてさしん記
 今らなふうは身ふもあきん
 身しよあれ権のつえふれりてあ
 さゆしよまてやあまらあき
 わらゆしよあきしよとそそりてけ
 あらふうひあつてうさ
 けりしよあきしよとそそりてけ

歌伴

仲実

俊頼

出房

ちとやんれ身あきりて
 わらきとれいひとあつて竹乃えと
 ちととちとらうきりてあ
 けきとせぬあきしよとあきりてあ
 うとけりて竹乃枝よあきと

兼良

幸隆

大進

七歌

ちととれむすはゆしよとあきりて
 りしよあ代乃敷つてあきん
 ちとあきしよ今あきしよあきりてあ
 ちとあきしよちとあきしよとあきりてあ

歌伴

仲実

ていふ代りなすひにけり由なりあること
いふさうらうふあささるや
をけりぬあささるに松に松の神
あまひと神の音なりふけり哉 忠房
なすさるや松のりさる昔のや
いふひさし子よと祝ふあま
さとせさるのりさる松のり子
かあすなすさるて古松のあま
はるの子れさとせ松のりさるめこと
七日のりさるいひさるあま
大を

後頼 忠房 兼昌 常陸

仙言

いふさるや松のりさる松のり
さるさるに松のりさる松のり
松のりさるに松のりさる松のり
さるさるに松のりさる松のり
いふさるに松のりさる松のり
さるさるに松のりさる松のり
いふさるに松のりさる松のり
さるさるに松のりさる松のり

松のり 仙言 後頼 忠房

月言はやくけくすむしんるくれ 兼留
わきまのいさふりつらみんをぬくえれ
くらん山れぬをまのひて 若陸
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ 大を

唐人

きまのきんよつくえれきんをうらほて
かろんよせくおまれ志まよわ 歌伴
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ 伴矣

あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ
あつさもいりふおわきんをぬくえれ
くはももさすすまれぬれハ

兼留

若陸

大を

兼留

若陸

大を

兼留

若陸

なとめ子うきまはあつとにひきつりて
 うすききそてきまはあつとめや
 ととめ子うきうおれうきまはあつと
 うきうきひとひらあつと
 ととめうきまはあつと
 夜通 昨もかやあつと
 うきうきひとひらあつと
 ぬきまはあつと
 あつとめ子うきまはあつと
 大進

〇七十四

〇七十四

老人

おまはあつと
 うきうきひとひらあつと
 ぬきまはあつと
 あつとめ子うきまはあつと
 けとけれえようきまはあつと
 去くらうきまはあつと
 いやまはあつと
 あつとめ子うきまはあつと
 目ふきまはあつと
 ねとめ子うきまはあつと

〇七十五

〇七十五

法杖ついでかよもらへし
 一かたのゆきほのふもくろくもんま
 かさるすもくははくしを
 くらももらへるゆきほもくろく
 いこもらへるゆきほもくろく
 泉邸
 黒うしめいさきいほくあまねと
 鯛つろよやちしほしと
 ねほいそにあさぬたなふかほきす
 あま色つくと神やぬきん
 兼思
 後損
 出房
 大を
 件更

ひく湯乃あまねうけし
 かうしとすところ
 ぬきぬきうみあうらや
 うしとあまねはけし
 わまころもいさきと
 うしとあまねはけし
 かうしとあまねはけし
 いふおれりえと
 ぬきぬきうみあうらや
 大を

かまうに海女くきらふもあつたれを
 福しくも福れありなりうの
 子成れよゆくと命そとつと
 となりよわあゆんれつりあつ
 中らぬはとすつとあつ
 もろくもいままらつと海と小伝居て
 いさうさうに相つりせ舞
 仲うさにおつらうまふれあつしけん
 有りそとなりうとく成ける

後頼
 出房
 出房
 常陸
 大色

笛

あまうにけれと城と月やてすん
 つつおのいさのすつとあつ
 ありつらあれとつとあつ
 のいさうちりもあつとあつ
 あをけけつらあれとつとあつ
 ありつらあれとつとあつ
 あえれひまもすあつとあつ
 ありつらあれとつとあつ

出房
 後頼
 出房

後頼

出房

みきとくしてゆくは苗は一人
 これにこそ神もあはれん苗のきれ
 さいふかけりてふまゝのゆかり
 まゝにれどあはれぬこの苗はけれ
 くらけれこそそくはれあはれ
 大ま

舞

ちとのきとくしてゆくは一人
 あはれぬあはれぬあはれぬ
 そくはれあはれぬあはれぬ
 仲実

ちとのきとくしてゆくは一人
 あはれぬあはれぬあはれぬ
 そくはれあはれぬあはれぬ
 まゝにれどあはれぬこの苗はけれ
 くらけれこそそくはれあはれ
 まゝにれどあはれぬこの苗はけれ
 くらけれこそそくはれあはれ
 秋乃志くはれあはれあはれあはれ
 大ま

後編

後編

蜘蛛

けろいをみるそうきつたけわおれ
くろくはくはくちたれを

けわおれをみるけわわわん
こよひまてんくおれあまひ

けわおれをみるけわわん
おろこなまてんくおれ

おろこなまてんくおれ
おろこなまてんくおれ

おろこなまてんくおれ
おろこなまてんくおれ

仲実

仲実

仲実

仲実

仲実

けろいをみるそうきつたけわおれ

くろくはくはくちたれを

けわおれをみるけわわん

こよひまてんくおれあまひ

けわおれをみるけわわん

おろこなまてんくおれ

仲実

仲実

仲実

仲実

仲実

仲実

後

此よりみみこいともあや〜とこあら〜り
 けりまらり〜もりら〜とや 後頼
 となつてふ〜とふら〜けら〜と人〜り
 直にたれ〜とま〜と心算を〜り
 ねり〜とたれ〜とれやまら〜との中を 忠房
 けり〜とあ〜とことあ〜とく〜と 善房
 あり〜りやま〜とふあ〜とふあ〜とら〜と
 ねり〜と海を〜とあ〜とれ〜とさ〜と 善房
 けり〜とふあ〜とけ〜とあ〜とさ〜と
 夕れ〜と〜と〜と〜と〜と
 大を

本云
 以 勅 本 年 身 書 字 授 合

純

慶長五年仲夏中衛 玄旨

延寶具四年 辰 仲秋上旬

林和泉撮板行

